

社団法人 日本印刷学会
西部支部創立 50 周年

50

社団法人 日本印刷学会 西部支部

輝かしい百万塔陀羅尼の研究

(社)日本印刷学会 名誉会員

片山 英一



50年をふりかえってみますと、支部の数々の事業や研究の輝かしい歴史のうち、最も力を注いだものは「百万塔陀羅尼の研究」であったと思います。

支部は昭和21年11月に関西支部として生松静夫初代支部長のもとに発足し、23年に西部支部と名称を改めましたが、その年の4月20日発行の「西部支部報第4号」に「百万塔陀羅尼の研究」の第一報が掲載されていて、この頃からこの研究に踏み出されていたことをうかがわせています。つづいて25年10月発行の「支部報第13号」に当時の支部長中田祐夫氏の「陀羅尼印刷方法の研究」の発表があり、爾来これを西部支部の最大の研究事業として約40年の永年にわたって引きつがれ年を重ねて参りました。その間に研究に参加してこれら大勢の方々の身边にもいろいろな事情や変遷が重なり、最終の取りまとめがつかぬままに年を経てしまっておりました。

私は昭和33年に中田支部長のもとに、事業部長を指名されこの研究のお手伝いをさせていただくようになりました。そのあと15年あまりを経て、当時の支部長の中根勝氏のあとをうけて支部長に推され就任致しました。昭和50年頃でしたか、陀羅尼の研究のことが気にかかったままでしたので、当初の頃から引きつづいてこの研究の中心になってリーダーシップをとってこられました中根氏に、これをなんとか取りまとめて下さいますようにとご無理なお願いを申し上げましたところ、私の願いを容れて下さり、それではと筆を新たにされ、作業にと

りかかって下さいました。しかし、それが如何に大変なご苦勞を伴う作業であったかを充分理解できないままにご無理なお願いをしてしまい、あとで深く悔やまれたことをごさいました。

それから更に10年余の歳月を経て膨大な資料とともにご苦心を重ねられての玉稿が、昭和61年6月に漸くまとめ上げられ、当時の支部長畑口栄之助氏のもとにお届け下さいました。この原稿は研究のまとめとはいえ、全く新しく書き下ろされた中根氏の永年の研究に基づく名著でございました。これをうけて早速に畑口氏を中心として「百万塔陀羅尼の研究刊行委員会」が結成され、私が代表に任ぜられて出版の運びとなりました。委員の方々は、中根・畑口・和田・海老の各氏とそれに私の5名でありました。

支部の関係各位及びご協力各社の温かいご理解によるご支援を賜わり、翌62年2月に初版を、引きつづき5月に再版第二刷を無事に発行することができました。当初から「(社)日本印刷学会」からの出版を念願し、ご相談申し上げたのですが当時の会長のご承諾を得ることができず、幸いに東京の「(株)八木書店」様がお引受けを下さいましたのでお願いし、初版500冊、二刷500冊の計1000冊を各方面からの非常な好評に迎えられ、たちまち完売して絶版と致しました。

研究に取りかかって以来、およそ40年の永きにわたり地元の大阪の印刷業界及び関連事業の各社から研究の費用のご援助の他、いろいろとご支援を賜わって参りましたことを更めて深く感謝申し上げ、厚く御礼を申し述べます。(社)日本印刷学会西部支部創立50周年の祝典に当たりまして支部の最大の事業でありました「百万塔陀羅尼の研究」を出版することができたいきさつをご報告し、お祝いの言葉にかえさせていただきます。

日本印刷学会 西部支部50年の歩みと関西の印刷界

●1945(昭20)年 コダック／
ダイトランスファープロセス
発表 大日本スクリーン／国
産29インチ丸型ガラススク
リーン完成

●1946(昭21)年 八光自動活
字鑄造機を戦後はじめて発売
コダック／エクタクローム
発表 日本光学／製版用アポ
ニッコールレンズ完成 共同
機械製作所／活版2回転印刷機
製造 中馬鉄工所／2回転およ
び書籍輪転機製造 日立製作
所／2色オフ機発表

●1947(昭22)年 財団法人印
刷図書館設立 吉田製紙／書
籍雑誌用ドライマット生産
フェアチャイルド／光電写真
製版機発売

●1948(昭23)年 富士フィル
ム／フジカラーフィルム発売
モリサワ／欧文専用写真植
字機完成 協栄／コバステッ
プ殖版機完成

●1949(昭24)年 写研／写植
用明朝体完成 津上製作所／

社団法人日本印刷学会の中部支部ならびに西部支部は、本年11月で設立50周年を迎えた。両支部とも、印刷およびこれに関連する学術技芸を研究し、その発達を図る、という目的でこれまで幅広い事業展開を行ってきた。また、今後、紙媒体から電子媒体に大きく広がってきた印刷技術動向に対して、50年を節目として、印刷業界に多大な貢献をすべき、その事業をさらに大きく拡大していくこととしている。

■百万塔陀羅尼の研究で足跡を残す

一西部支部一

昭和3年に印刷学会が創立され、西部支部、中部支部の両支部は、昭和21年11月にあいついで創立された。

西部支部は、昭和21年10月20日、学会本部の要



大日本スクリーン製造 見学会（1968年11月）

国産ベントン型母型彫刻機完成 小池製作所／インテル自動鋳造機完成 浜田／グラフィ印刷機完成 芳野／丁合針金綴機完成 日本印刷工業会創立 東京印刷工業協同組合設立、ついで全国各府県に協同組合設立

●1950(昭25)年 モリサワ／新機構のMC型写真植字機完成 金陽社／合成ゴムブランケット完成 日本印刷学会／アメリカ極東軍の印刷工場見学会に450名参加

●1951(昭26)年 小森／2色オフ機発表 3M／ポリクロームPS版発売

●1953(昭28)年 ヘル／クリショグラフィ発表 クロスフィールド／スキャナトロン発表

●1954(昭29)年 日本印刷学会／創立25周年 第3回印刷文化典／福岡で開催

●1955(昭30)年 田中和鶴海／ネガカラーからの新製版法開発 中西／B全オフセット校正機発売

●1956(昭31)年 日本印刷技術共同研究協会発足 印刷文化の歌発表

●1957(昭32)年 東京で第1

請により関西在住の生松静夫(京都専売局)平井乾吉(大日本印刷京都工場)、安藤哲信、安原敏夫、福谷勝秋(以上毎日新聞大阪本社)、佐々布弘一(朝日新聞大阪本社)、阪田五久雄(阪田商会)、藤井博(藤井改進黨)、片岡爲七(帝国印刷)、上野清治、中根勝、植本繁三(以上天理時報社)、文蔵哲雄(府立今宮工芸学校)、竹村真一(河北印刷)など東京美術学校製版科、東京高等学校印刷工芸科出身者および業界より日本精版(株)の久保専治、日本写真印刷(株)の鈴木直枝、中田印刷(株)の中田祐夫の諸氏の協力で設立準備を進めた。

昭和21年11月14日毎日新聞大阪本社講堂において、東京本部より佐久間長吉郎、山上謙一、川田久長、飯坂義治の諸氏を迎えて関西支部設立総会を開き、支部役員、支部規定、支部事業について承認をもとめ、続いて記念講演会を催した。

昭和21・22年度役員として支部長生松静夫、事業部長上野清治、研究部長中田祐夫、庶務委員中根勝、竹村真一、山下守、事業委員佐々布弘一、安原敏夫、久保専治、鈴木直枝、藤井博、岡恒一、編集委員文蔵哲雄、研究委員早船庫之助、松浦武夫、平井乾吉、一里山金助、波々伯部秀治、田中宗治、青木信利が選出された。



中・西部合同役員会 (1988年9月)

回アジア太平洋印刷人会議開催

●1958(昭33)年 ハイデル／2色凸版印刷機発売 第7回印刷文化典／大阪で開催

●1959(昭34)年 大日本スクリーン／国産初の電子彫刻機オートグレーバー発表

●1960(昭35)年 紅羊社／平台オフ機開発 わが国の印刷界で初めての技能国家試験実施／凸版印刷工、活版製版工

●1961(昭36)年 凸版印刷／ステレオ(立体写真)印刷物完成 日本スクリーンプロセス技術協会発足

●1962(昭37)年 東京スカナ／PDIスカナを日本で初めて設置 3M／簡易色校正法カラーキイ発売 活字の基準寸法・活字合金地金／JIS制定 千葉大学工学部／印刷工学科設置

●1964(昭39)年 コダック／ダイレクトスクリーニング法発表 印刷工業会／プロセス印刷用標準3色インキ設定

●1965(昭40)年 印刷校正記号がJIS化 印刷機械貿易／ハイデル・ロタスピードオフ機発売 アメリカ製カーボンチッシュ輸入 製版界で初めての技能国家試験が実施 印

また事業部としては講演会・座談会・展覧会・見学会の開催、協賛、支部報などの編集刊行、印刷学校、印刷業界の発展、育成に協力する。研究部は各種印刷技術・印刷機器・諸材料・作業の標準化、能率化の調査研究、およびその成果の発表などを決め、実行してきた。

■関西支部から西部支部へ

関西支部の名称は昭和23年1月に支部規約を改めて、西部支部とし近畿以西の正会員で組織することとなった。また西部支部報の第1号が同じ1月20日に創刊された。この支部報は昭和47年10月までに84号が発行されたが以後休刊されている。

西部支部の事業および研究活動の方向は、創立当初から他の学会のように程度の高い事業企画、深い学理の研究を目標とせず現場に問題をとらえ、会員を一般工場従業員にまで広げる啓蒙活動に努めることであった。歴代支部長はこの方針に沿って講演会、講習会、座談会、見学会あるいは研究活動も計画された。こうした啓蒙的な支部活動は昭和45年7月20日大阪印刷会館内に印刷技術協会の大阪支所が開設されるに及んで、漸次薄れ



秋期研究発表会(1988年11月)

刷業近代化基本計画実施 全
国高校印刷科教育研究会設立

●1966(昭41)年 輸入印刷機
業者懇話会発足 全日本印刷
製本機械工業会発足

●1969(昭44)年 PDIカラー
スキャナ新型MR-D完成 大
日本スクリーン／製版用ロー
ルフィルムカメラ国産化 新
日本セイハン／ネオスクリン
レス法開発 ヘリオクリショ
グラフ導入 紙の原紙寸法／
JIS制定

●1970(昭45)年 リョービ／
写真植字機発表 日本印刷学
会推薦の高演色性蛍光灯普及
APR樹脂版実用化

●1971(昭46)年 電算写植の
協業組合営業開始 大阪ヤマ
トヤ／マグナスキャン450ダ
イレクトスキャナ販売 下垣
鉄工／ピンアクシステム開発
活字発祥の碑建設

●1972(昭47)年 クロマリン
校正システム発表 ヘル社製
スキャナーDC300第一号機稼
働 網かけスキャナー実用化

●1973(昭48)年 小池製作所
／全自動モノタイプ開発 大
日本スクリーン／国産初のダ
イレクトスキャナーSG701開
発 通産省生活産業局紙業課
内に印刷製本班設置

ていく傾向となった。

また一方では終戦以後の欧米の印刷技術、印刷
機器、印刷資材の著しい開発、発展に遅れないよ
う、事業活動、研究活動を通じてその新知識の紹
介にも努めた。

地域に貢献するという意味では、各方面の後援
協賛を得て支部が主催した京都大丸百貨店(昭和22
年5月12～18日)、大阪阪急百貨店(昭和22年10月
19～26日)で催した印刷文化展は、戦後間もない
荒廃した時期に一般人に印刷文化を紹介し、印刷
人には何らかの技術的刺激を与えたものと思う。

また昭和36年度から始められた印刷業の技能検
定にも、支部会員から技能検定委員を出すとともに、
受験者のための印刷講習会を主催した。また
受験者用の“活版製版講座”(昭和37年10月初版)、
“平版印刷講座”(昭和36年刊)の編集も行われた。

大阪印刷工業会担当の第2回印刷産業展(昭和28
年9月15～21日 大阪松坂屋)、第7回印刷文化典
(昭和33年10月18～23日大阪松坂屋)、第19回印刷
文化典(JP'70昭和45年5月15～21日国際見本市港会
場)の各印刷展覧会の展示企画に協力した。とくに



中・西部合同役員会、工場見学(1991年10月)

●1975(昭50)年 朝日新聞／
ネルソンシステム本格実用
キャメロンブロックプレス日
本で初めて稼働 凸版印刷／
THグラビア法開発

●1976(昭51)年 東レ／水な
し平版発表

●1977(昭52)年 大日本印
刷・日立精工／自動版下作図
システム完成 シンクラボラ
トリー／コンピュータ利用の
グラビア自動製版システム開
発

●1979(昭54)年 大日本印刷
／FSプロセス開発 サイテッ
クス／レスポンス300発表
ヘル／クロマコム発表

●1980(昭55)年 製版作業の
明室化 凸版印刷・大日本ス
クリーン／ビデオ製版システ
ム開発

●1979(昭54)年 機材展問題
特別委員会設置・店頭看板全
組合員に設置決定・得意先向
け文書「資材値上げによる印刷
業者の窮状を訴える」1万社に
郵送

●1980(昭55)年 印刷料金値
上げ運動・大阪府印刷工業厚
生年金基金10周年

●1981(昭56)年 神戸印刷文
化典協賛・JP81印刷総合機材

JP'70では支部役員より約20名の展覧会委員を送り、昭和44年7月20日の西部支部理事会で展覧会の基本構想案を検討してから、45年5月までに40数回の委員会を開いて準備に努めた。その結果文化典の印刷展覧会としては、これまでにないユニークな展示ができたものと自負している。

また第3回印刷文化展(昭和29年9月福岡)の記念講演会、福岡印刷工業回主催の講演会(昭和33年8月福岡商工会議所)、昭和41年10月岩国市で催された中国地区一日技術相談室、8月山口県長門市で催された講演会と一日技術相談室、昭和43年8月広島市のプリント'68紹介の講演会などには、中田支部長以下数名の役員を講師として参加協力した。

西部支部の研究活動は必ずしも活発であったとはいえないが、とくにあげなければならないのは、中田祐夫氏をリーダーとした百万塔陀羅尼の研究である。この研究は昭和23年9月からはじまり、阪大篠田教授より陀羅尼のX線分光分析による銅イオンの検出方法、また関西学院上村教授より用墨の油煙か松煙かの識別方法の意見をきいた。続いて昭和25年に中田氏「法隆寺百万塔陀羅尼の印刷方法研究要請」を西部支部報(第13号)に発表してスタートを切った。しかし本格的な研究活動は



中・西部合同役員会、工場見学(1995年10月)

展・第5回全国頁物印刷協議会

●1982(昭57) 大印工理事長
に住野修二氏就任・印刷週間
記念講演会

●1983(昭58)年 大印工百周
年記念行事総合計画決定・大
阪印刷経営協議会解散

●1984(昭59)年 大印工百周
年記念行事「大阪印刷百年史」
刊行・大阪印刷団地協組10周
年・堺印刷工業協同組合20周
年・第8回全国頁物印刷連結協
議会(大阪・箕面)・第25回印
刷文化典(大阪)

●1985(昭60)年 大印工第1
回印刷営業士指導講演会・大
印工百周年記念事業本木昌造
銅像復元除幕式

●1986(昭61)年 大阪青年印
刷人協議会結成大会・本木祭

●1987(昭62)年 印刷月間
「企画制作マニュアル」作成配
布組合員増強運動実施

●1988(昭63)年 印刷月間/
献血運動、「効果的な会社案内
のすすめ」作成配布・第2回大
阪印刷人ファミリーカーニバル
(天王寺動物園)

●1989(平元)年 第1回印刷
営業技能審査認定試験・需要
拡大研修会

長い法隆寺との交渉の結果、寺側の許可を得て昭和38年8月25～31日にわたって、特殊設計カメラで法隆寺で保存の良好な約250点の陀羅尼の原寸大撮影によって始まった。研究員は支部役員のほかに元大阪工業試験所長仙石博士、元奈良工業試験所長松井藤次、木版彫刻家楠巖齊などの諸氏の参加を得た。研究の最終目的は陀羅尼の版式と印刷方式の解明であるが、用墨の種類、用紙の調査、科学的研究も平行した。研究の中間的経過の発表は昭和40年5月15日天理図書館における講演ならびに座談会、および昭和43年10月の印刷雑誌に発表した論文、「百万塔陀羅尼の印刷物研究」で行われた。研究の中心的存在であった錦織望博士が昭和39年に、昭和49年には井上清一郎が昭和59年には中田祐夫氏の逝去にあい、研究は休止の状態となった。その後、わずかに陀羅尼の原寸大木版版木による耐刷力のテストが、毎日新聞出版部、薬師寺氏の好意により、特漉麻紙の提供を受けて行われた。この研究は結論を出すまでに至らなかったが、従来有力であった諸学説の金属版説が木版説に傾く示唆となった。

これまでの研究成果を中根勝氏(平成5年逝去)がまとめあげ昭和62年2月「百万塔陀羅尼の研究」として刊行委員会によって出版された(現在絶版)。



ファインイメージングシンポジウム、高精細印刷画像論

●1990(平2)年 大印工理事
長に石川忠氏就任・大阪府製
本工組創立百周年・全青協第4
回協議会(大阪)・90大阪印刷
文化典

●1991(平3)年 大阪府印刷
関連産業政治連盟発足

●1992(平4)年 青年印刷人
クラブ30周年・92大阪プリン
ティング・フェスティバル

●1993(平5)年 93大阪プリ
ンティング・フェスティバル

■最近の活動

日本印刷学会は昭和53年6月創立50周年を迎え、昭和55年4月文部省の認可を得て社団法人日本印刷学会として発足した。西部支部の組織は本部理事2名のもと、幹事・監査で構成され、認可前と同様に活発に講習会、研究会、見学会等の行事を行っている。また昭和63年以降は賛助会員企業を対象とした、新商品発表の機会をもうけ年1回新技術・新商品発表会を開催してきた。

コンピュータの導入により、印刷もさまざまな新しい技術が開発された。それにともない西部支部ではタイムリーにシンポジウムや講演会を行ってきている。93(平成5)年より5回行った「ファインイメージシンポジウム」シリーズを纏めて、平成7年2月「高精細印刷画像論」として出版した。続いて西部、中部両支部で行ったシンポジウムを「高精細印刷画像論Ⅱ」として出版し、賛助会員に配布して好評を得た。その他昭和56年より他学会と交流を深めて、賛助法人として協力している。

西部支部の活動についてみると、昭和21年の支部創立から法人化前の昭和54年までの支部活動は講演会70回、講習会47回、公開座談会19回、工場見学69回、印刷展覧会2回、機械展示会1回、秋期研究発表会14回である。

法人化後の昭和55年以降の活動は、講習会22回、研究会21回、見学会24回、新技術新商品発表8回、秋期研究発表会16回、協賛講習会27回など、多くの講演会を催している。さらに時代を見据え、新技術発表会などを活発に行うことで、会員各位に最新技術情報を収集する場を提供している。

95(平成7)年1月17日起こった阪神・淡路大震災では被災地区の会費免除など支援体制をとった。

■歴代支部長および役員

	支部長	事業部長	研究部長	編集部長
1946～47(昭21～22)年	生松静夫	上野清治	中田祐夫	文蔵哲雄
1948(昭23)年	生松静夫	上野清治	中田祐夫	文蔵哲雄
1949～50(昭24～25)	中田祐夫	野村廣太郎	福島栄一	竹村真一
1951(昭26)	中田祐夫	加来清吾	中田祐夫	浜田正明
1952～53(昭27～28)	早船庫之助	加来清吾	野村廣太郎	浜田正明
1953.7～(昭28.7～)	中田祐夫	加来清吾	野村廣太郎	浜田正明
1954～55(昭29～30)	野村廣太郎	野村廣太郎	松浦武夫	杉山憲一
1956～57(昭31～32)	上野清治	中根 勝	文蔵哲雄	松浦武夫
1958～59(昭33～34)	中田祐夫	片山英一	坂見清次郎	文蔵哲雄
1960～61(昭35～36)	中田祐夫	片山英一	坂見清次郎	井上清一郎
1962～63(昭37～38)	中田祐夫	岩本甲子太郎	加根魯三雄	文蔵哲雄
1964～65(昭39～40)	中田祐夫	畑口栄之助	錦織 望	海老良周
1966～67(昭41～42)	中田祐夫	海老良周	井上清一郎	岸田 耕
1968～69(昭43～44)	中根 勝	海老良周	井上清一郎	畑口栄之助
1970～71(昭45～46)	中根 勝	海老良周	井上清一郎	畑口栄之助
1972～73(昭47～48)	片山英一	奥村喜代一	和田善男	上野博之
1974～75(昭49～50)	〃	〃	〃	〃
1976～77(昭51～52)	〃	〃	〃	〃
1978～79(昭53～54)	〃	〃	〃	〃

* 法人化後は次の通りである。

支部長(本部理事) 本部理事

1980～81(昭55～56)	海老良周	片山英一(副会長)	畑口栄之助(監事)
1982～83(昭57～58)	海老良周	和田善男	片山英一(監事)
1984～85(昭59～60)	畑口栄之助	〃	
1986～87(昭61～62)	畑口栄之助	〃	
1988～89(昭63～平元)	滝本靖之	〃	
1990～91(平2～3)	滝本靖之	〃	
1992～93(平4～5)	野々下祐三朗	小野善雄	
1994～95(平6～7)	野々下祐三朗	小野善雄	
1996～97(平8～9)	和田善男	成田智昭	

(社)日本印刷学会西部支部

平成 8.9 年度・役員名簿

(50音順)

(1996年11月)

役職名	氏 名	勤 務 先	〒	所 在 地	電 話
本部理事・支部長	和田善男	京都工芸繊維大学	606	京都市左京区松ヶ崎御所海道町	075-724-7543
幹 事	赤 枝 進	日本写真印刷(株)	604	京都市中京区壬生花井町3	075-823-5160
〃	石 川 卓	(株)光 陽 社	540	大阪市中央区谷町4-5-8	944-5036
〃	岩 井 實	(株)天 理 時 報 社	632	天理市稲葉町80	07436-4-1801
〃	奥村喜代一	シ グ マ 紙 業(株)	555	大阪市西淀川区御幣島5-12-24	472-1321
〃	尾崎耕治	大日本スクリーン製造(株)	602	京都市上京区堀川通寺之内上ル4	075-417-2687
〃	笠井広志	東 洋 紙 業(株)	556	大阪市浪速区芦原1-3	567-2111
〃	神 山 茂	(株)モ リ サ ワ	556	大阪市浪速区敷津東2-6-25	649-2151
〃	川崎宏治	三菱重工印刷紙工機械販売(株)	660	尼崎市常光寺1-2-2	488-2337
〃	木下堯博	九 州 産 業 大 学	813	福岡市東区松香台2-3-1 自0940-33-2889	092-673-5758
〃	佐長信夫	大日本インキ化学工業(株)	564	吹田市岸部南3-34-1	381-9658
〃	竹内茂夫	ハイデルベルグPMT(株)	572	寝屋川市豊里町1-4	0720-32-0441
〃	田 村 博	東洋インキ製造(株)	564	吹田市岸部中2-4-1	387-8875
本部理事・幹事	成田智昭	光陽化学工業(株)	658	神戸市東灘区本山中町2-7-24	078-453-3311
幹 事	野々下祐三朗	ブラザー印刷(株)	537	大阪市東成区深江南2-8-35	972-7781
〃	山田稔彦	コ ニ カ(株)	542	大阪市中央区西心斎橋1-5-5	252-5751
〃	松下雅巳	紀 州 製 紙(株)	564	吹田市南吹田4-22-1	384-9192
〃	村田和義	大阪府立今宮工業高校	557	大阪市西成区出城1-1-6	631-0055
〃	矢 島 和	富士精版印刷(株)	532	大阪市淀川区西宮原町2-4-33	394-1181
〃	矢田俊雄	三 菱 電 機(株)	661	尼崎市塚口本町8-1-1	497-7568
〃	山崎史晴	富士写真フィルム(株)	541	大阪市中央区備後町3-5-11	205-6543
〃	横田俊郎	(株)精 洗 社	543	大阪市天王寺区小橋町8-15	764-7275
〃	吉田章男	三 菱 製 紙(株)	617	長岡京市開田1-6-6	075-951-1186
監 査	滝本靖之	日本ペイント(株)	569	高槻市富士の里町19-8	0726-75-8175
〃	原田博郎	大 阪 印 刷(株)	569	高槻市日吉台2番町9-25	0726-88-2294